2014/06/23
関東事務局

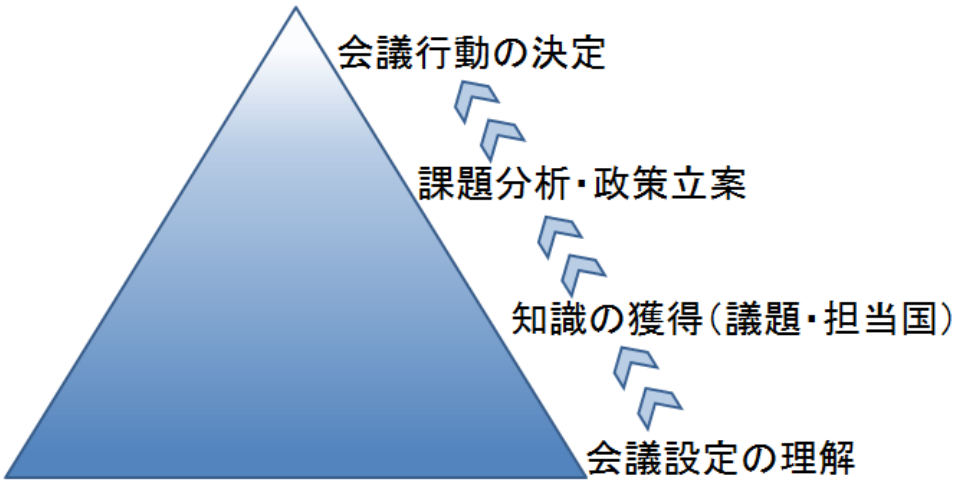
模擬国連における
リサーチのプロセス・手法

文責：中島悠輔
（第 25 回模擬国連会議全日本大会　会議監督）

模擬国連とは、ある議題について、参加者一人一人が「大使」、「政府代表」という立場に立って、交渉をするという活動です。会議場で自分の論を主張し、他の参加者と交渉するためには、事前の準備が必要です。「参加する会議で取り上げる議題」について、「担当する国」について、情報を知り、思考して自分なりの論を作り上げる必要があります。
この、文書では、模擬国連会議に参加する前にどのような準備をしたらよいのか、ということを説明していきます。

●リサーチの流れ

リサーチの流れを大まかに説明すると以下の図のようになります。一つ一つのプロセスを丁寧に踏むことで会議に向けた準備をすることができます。以下では、プロセスの細かい内容に踏み込みます。



1. 会議設定の理解

会議についての準備を始める前に、参加する模擬国連会議がどのような設定の会議なのかをよく理解する必要があります。

国際会議、国連会議は開催される時代によっても性質が変化します。第二次世界大戦直後のアメリカが覇権を握っていた時代における国際連合と、EU や日本、中国、ロシア、アメリカ、など複数の国が力を持っている現在の国際連合とでは、世界の平和・安全に対する施策の在り方が異なります。模擬国連では、過去に行われた会議を模擬して、歴史が変わるダイナミズムを楽しむ会議や、未来に行う会議を模擬し、創造的な議論を楽しむ会議がありますが、いずれにせよ**時代背景**を理解することが重要です。

また、会議は開催する機関によってそれぞれ異なる性質があります。例えば、国際連合安全保障理事会は 15 か国で構成される機関で、国連加盟国に対して強い拘束力を持った決定を行えます。一方、国際連合総会は基本的には国連全加盟国（2014 年現在 193 か国）が参加し、決議を発表しますが、強い拘束力を持った決定をすることは出来ず、勧告をするに留まります。また軍事問題の解決や、環境問題の解決、など会議によって目指す目的が異なります。どのような会議でどのような決定を行うことができるのか、つまり**会議の性質**[1]についてよく理解することが必要です。

そして、当然のことですが、議題の設定によっても会議の性質が変化します。議題は、模擬国連会議の監督者（会議監督、ディレクターと呼ばれています）から出された課題とも捉える事ができます。参加者は課題に対して答えを考え、議論・交渉し、結論を出します。逆に言うと課題に答えていない答えは望まれていません。例えば、「持続可能なエネルギーの在り方」という議題を話し合う際に、核エネルギーの軍事利用について細かく言及することは求められていません。こういった求められていない議論を避けるために、会議監督が議論しない項目を規定するルール（アウトオブアジェンダと言います。）を設けていることもあります。**議題の意味、議論の焦点**、を良く考え、理解して会議の準備をするようにして下さい。

注目すべき観点として

- ✔時代背景
- ✔会議の性質

[1] 国際連合広報センター
（http://www.unic.or.jp/info/）

✔議題の意味・議論の焦点

の 3 点について取り上げましたが、これらの 3 つの要素は密接に関係しあっています。どの国際会議も、ある時代背景で、課題（議題）が発生し、それを話し合う場として会議を設定しています。これらを読み解いて、参加する模擬国連会議で何が求められているのか、何をすることができるのか、をよく理解するようにして下さい。会議監督が配布する議題についての解説（Background Guide、BG と呼ばれます。）を読んだり、自分で調べたりして理解するとよいでしょう。特に、Background Guide を良く読み込んだ後に、議題に関係する図書を読むことをお勧めします。図書は問題を体系立てて説明してくれる場合が多いので、問題を構造的に理解するのに適しています。逆に断片的な知識を知りたかったらネットで調べると良いかもしれません。

例として、第 25 回全日本大会での『都市における統合的水管理』の会議設定を取り上げます。簡単な時代背景、会議の性質、議題の意味・議論の焦点について説明を書いたので、参考にしてみてください。

例: 第25回全日本大会
『都市における統合的水管理』の会議設定

水問題に関する会議はUNEPや国連総会などがあるが、7th World Water Forumが選ばれた。

当時（2013年）では、未来の会議である。2015年が水問題のレビューをする年であったためこのような設定がされた。

議場	第７回世界水フォーラム 7th World Water Forum
開催期間	平成 27 年（2015 年）4 月 12 日（日）～17 日（金）
会場	韓国 大邱慶北
主催	第７回世界水フォーラム国際組織委員会（共同委員長: ペネディト・プラガ氏、イ・スンタク氏）※韓国側の国内委員会（委員長: イ・ジョンム氏）及び世界水会議（WWC）で構成
参加者	国際機関、各国政府・地方政府、研究者、市民グループ、企業・事業体
議題	都市における統合的水管理 （Integrated Urban Water Management）
言語	公式(スピーチで使用する言語)：日本語（英[illegible]使用可） 非公式(議論で使用する言語)：日本語 成果文書：日本語

World Water Forumは国だけでなく、NPOも参加する。会議は意見交換・調整をすることが主な目的で、決議も拘束力はない。

2015年はミレニアム開発目標の達成目標年であり、開発に関する分野のレビューがなされる。都市開発により水が汚染される問題や衛生的な水の衛平な分配に関する問題も重要視されており、今後の持続可能な開発に沿う水の管理方法の技術、知識の必要性が叫ばれている。

引用:『都市における統合的水管理』Background Guideより

2. 知識の獲得（議題・担当国）

会議の設定について理解したら、次に議題に関する知識や、担当国についての知識を身につけると良いでしょう。

議題に関する知識は、上の項目でも挙げましたが、これまで議題がどのような背景で発生した問題なのか、どのような問題なのか、どのような解決策が存在するか、といったことを体系立てて理解するとよいでしょう。各議題によって調べる方法が違いますが、一般的なことを述べると、Background Guide を良く読み込み、Background Guide に記されている参考資料を中心に調べものをして背景知識をつけると良いでしょう。やはり図書を読むことをお勧めします。

また、自分の担当国が、議題、議論の焦点に対してどのような意見を持っているのかを調べます。その背景として、まずは外務省[2]や CIA The World Fact Book[3]のサイトなどを使って各国の気候や人口、経済状況、政治情勢といった基本情報を調べ、担当国がどんな国かを知る必要があります。どのような問題を話し合う時にも、担当国の様々な状況を総合的に考えて判断するべきだからです。議題に関係しそうな分野を中心に、一見関係しなさそうな分野にまで幅広く興味を持って調べましょう。

次に、議題に対する担当国の姿勢を調べ考えます。

議題について触れた本で担当国についても書かれている本があるのであればそれを読むことをお勧めします。本を読む以外にはインターネットで議題と担当国について書かれた記事を探します。

また、国際会議における担当国の発言や投票行動を調べる場合もあります。UNBIS NET[4]というサイトでは、担当国が過去に国際会議でどういう内容をスピーチしたか、どういう内容の成果文書に賛成の票を投じたといった情報を得ることが出来、各国の議題に対する姿勢を大まかに知ることができます。しかし、この内容を鵜呑みにして模擬国連会議でも全く同じ姿勢で参加するのは良い行動だとは言えません。大事なことは、参加者自身が担当国の状況を踏まえて思考し、議題に対する論理的な考えを作り出すことです。今までの担当国の投票行動やスピーチの内容を参考にし、自分で担当国の状況を踏まえた主張や会議行動を考えると良いでしょう。

---

[2] 外務省　各国・地域情勢
（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/）

[3] The World Factbook CIA
（https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/）

[4] UNBIS NET
（http://unbisnet.un.org/）

3. 課題分析・政策立案

これまでは知識の獲得を行ってきました。次は、担当国が議題の問題に関して何をするべきかを**「考える」**段階です。**リサーチのプロセスの中でこの段階が最も重要です。**

「まずは、模擬する会議が目指している目標は何かを考えてみましょう。」

ここでは、例として、1995 年頃から議論されている、国連安全保障理事会で安全保障理事会の改革について議論する会議と、実際の日本政府の動きを取り上げて課題分析・政策立案のプロセスを説明します。実際の政府が何をしたかではなくどのように考えるべきかに注目して読んでください。
安全保障理事会の場合は、「安全保障理事会が国際社会の平和と安全を維持できるシステムを再構築すること」が会議の目的となります。

「では、その目標が達成できていない原因、障害は何でしょうか？国際的な問題を一般的な視点で見てみましょう。」

例では、一般的に、1945 年の国連発足から国際的な経済・社会、が大きく変化しているのにも関わらず安全保障理事会の構成国に大きな変化が見られず、現在の社会を反映した構成になっていないこと、常任理事国の拒否権の行使により緊急事態への対処が遅れる可能性があること、議論が不透明であることが問題として挙げられています。これらの主張から、常任理事国、非常任理事国を増やすこと、拒否権の扱いの変更、などの提案がなされています。
しかし、世界に影響力を持つ少数の国で構成されているからこそ迅速な判断ができる、拒否権があるから多数決による判断ではなくより理性的な判断ができる、軍事関係の機密性の高い議論であるため致し方ないなどの反論も挙げられています。
これらの主張の論理（例えば、現在の国際社会に即した安保理の構成とはどのようなものか、その改革によりどのように世界の平和・安全に貢献するのか）についてより詳しく知り、考える必要があります。

「次に担当国は議題における問題をどのような問題として捉えているのでしょうか。」

上の問題について日本の視点から考えてみましょう。

日本としては、PKO を派遣した、政府開発援助（ODA）を多く行ってきたなど、世界の平和・安全に対する活動を積極的に行ってきました。また、経済上でも世界で大きな力を持っており、世界において影響力の大きな国であると言って良いでしょう。安全保障理事会の非常任理事国に選出される回数は多いですが、常任理事国のメンバーではありません。実際の日本は、安全保障理事会が、現在の、各国の世界への影響力を反映した構成となるべきではないか、ということに強い問題意識を持っています。そして、安全保障理事会の構成メンバーを改革し、常任理事国に選出されることを望んでいます。

常任理事国になるということは、世界の平和・安全に対して活動する責任を持つことですが、外交上、さらに強い影響力を持つという事とも同義です。先の問題意識の背景には、日本が今後、外交の上でさらに大きな政治的な力を持とうとしている姿勢があります。日本政府の過去の活動、現在の国内・国際社会の状況、今後の国内・国際社会、また各国との関係性をよく分析した上で、常任理事国になり外交上の影響力を得ることが必要なのかを考えているはずです。ここでは詳しくは取り上げませんが、担当国の国内外の状況を詳しく分析した上で、議題の課題に対する方針を立てましょう。

「議題における問題に対する、日本の考えをまとめられたら、その考えを実現するために必要な具体的な行動を考えましょう。この作業が「政策立案」です。」

上の例でいうと、実際の日本は G4 と言われるグループ（日本、ブラジル、ドイツ、インド）と調整をして、

常任理事国	11 か国（現 5+6{アジア 2、アフリカ 2、ラテンアメリカ 1、西欧その他 1}）
非常任理事国	14 か国（現 10+4{アジア 1、アフリカ 1、ラテンアメリカ 1、東欧 1}）
拒否権	非常任理事国は当面拒否権を行使できない

という提案を行いました。

実際の政府は、上の安保理の問題（世界の平和・安全の維持を実現するシステム作り）政府の課題意識（外交上の影響力の拡大）を論理的に解決するため、また G4 との関係性を考慮して、この提案を出したのでしょう。

政策立案はとても難しい作業です。上で出した、**議題の問題、さらには担当国の課題意識の両者を論理的に解決できるアイディアを作ることが「政策立案」**です。

まずは、様々なアイディアを出してみてください。（ブレインストーミングと言った手法を使うと良いでしょう。）それらのアイディアの中から問題、課題を解決できそうなものを選びますが、その際に「本当に解決できるのか？」ということを厳しく考える必要があります。例えば、日本の提案は、本当に、安保理が世界の平和・安全を維持するためのシステムの提案なのか？現在の国際社会における影響力を反映した安保理の構成を作り上げられるのか？などを厳しく追及してください。何度も、アイディアの創出と選択を繰り返しながら、政策を洗練させていきます。

しっかりと疑問をぶつけ続け洗練した政策は議場でも、質問や反論をぶつけられても、相手に論理的に回答することができるでしょう。

4.「会議行動」を練る

最後に、自分が考えた「政策」を模擬国連の会議で皆に納得させられるような「会議中の行動」いわゆる「戦略」を考えます。

上の例だと、「G4 と協力して、上記の提案をアフリカ連合というグループに持ちかけて賛成票を得る。議場の中の多くの国が賛成したら、提案が通るだろう」といったものでしょうか。

会議戦略は事前に準備すると良いですが、なかなか戦略通りには進まず、会議中にも何度も変更すると思います。実際に会議に参加すると分かると思いますが、自分の担当国の利益を追求する方法を考え、（少し腹黒く）行動することはゲームを楽しんでいる感覚があります。模擬国連の面白さの一部だと言えます。

しかし、模擬国連会議では「交渉」をしていることを忘れないでください。「交渉」とは相手に自分の政策を納得し協力してもらおうと話すことであり、相手を論破して自分の意見を飲ませることは違います。「交渉」をすることを忘れずに、戦略を考えてください。

●終わりに

リサーチを行い、背景知識、論理を持って議論・交渉をすると、白熱した議論をすることができ、模擬国連活動がさらに充実したものになると思います。また、リサーチをする過程で、たくさんの知識が身につけられ、論理的な力も身に付くと思います。
私が書いたこの文書が皆さんの活動の一助になれば幸いです。
最後まで読んでいただきありがとうございました。